

第23回  
国際視野画像学会  
を主催して

金沢大学  
すぎやま かずひさ  
教授 杉山 和久



## 金沢での国際学会、安堵と感謝そして感無量

2018年5月9日(水)から12日(土)に岩瀬愛子先生と私がともに会長を務める「第23回国際視野画像学会(Imaging and Perimetry Society: I P S)」そして、12日(土)、13日(日)に大久保真司先生が会長を務める「第7回日本視野学会(J P S)学術集会」の2つの学会をJR金沢駅前の石川県立音楽堂で開催しました。

開催時期が日本の眼科医の多くが出席すると思われるハワイでのARVOの翌週、そして欧州の先生が多く参加するヨーロッパ緑内障学会(E G S)の前の週ということで、参加者が少ないのではないかと、当初とても心配しておりました。現にI P SのVice PresidentのDavid Garway-Heath教授は、E G S会長のため、今回は出席できませんでした。ところが蓋を開けてみると、I P Sは297人の参加者(前回はイタリアで100人程度の参加)、J P Sは510人の参加者があり(2015年の金沢大学主催のJ P Sに匹敵)、大変盛大に執り行なうことができました。金沢大学眼科同門会の先生方には99人の事前登録があり、大変助かりました。両学会の事務局長を務めた金沢大学の宇田川さち子視能訓練士は、他の視能訓練士と協力してとても頑張ってくれました。心より感謝しております。

金沢城公園内の五十間長屋でのWelcome Partyも雨

を心配しておりましたが、オープニングの御陣乗太鼓の時は雨がピタッと止みました。とても運がいいなあ、我ながら感心しました。Closing Banquetでは参加者が国別に余興をします。今回、日本チームは、私がマリオに扮して登場して大変緊張しましたが、大拍手で盛り上がりました。うちの教室員は慣れない英語で司会をしたり、徹夜でマリオの動画を作ったり、とても大変だったと思います。私自身は、英語でのスピーチがとても多くて緊張しました。

今は、I P SそしてJ P Sも滞りなく終了して安堵の気持ちで一杯です。恩師の北澤克明先生が1992年に京都でI P Sを主催され、その26年後に、弟子である岩瀬先生と私が一緒にI P Sを主催することができ感無量です。I P Sを金沢に誘致して下さったI P SのPresidentである松本長太先生、Vice Presidentの岩瀬先生には感謝の気持ちでいっぱいです。また、教室同門の大久保先生も本当に頑張ってくださいました。

国内外からの参加者が、最高の季節の金沢を満喫して帰ってくれたことがとてもうれしいです。もちろん、学術的にも素晴らしい学会でした。2年後はサンフランシスコ郊外のパークレーで開催されます。ぜひ、皆さま参加してみませんか？

第23回  
国際視野画像学会  
を主催して

岐阜県多治見市  
たじみ岩瀬眼科  
院長 いわせ 岩瀬 あいこ 愛子



## 金沢から世界へ発信！心に残る学会プログラムを！

国際視野画像学会 (Imaging and Perimetry Society : IPS) は、1974年にマルセイユで始まり、隔年の開催で、世界の視野検査の基礎を研究発表している学会です。歴史をみますと、その時代のStandardをつくってきた人たちの名前が役員や参加者に並びます。そして、もう1つの特徴は、そうした教科書でしか名前をみないような著名な先生たちと、視野の研究を始めたばかりの研究者が、一堂に会して全く対等に議論をできる学会でもあり、かなりマニアックなディスカッションが続く楽しい学会です。

日本では1976年に東京(会長:東京医科大学・松尾治巨教授)、1992年に京都(岐阜大学・北澤克明教授)、2008年に奈良(近畿大学・松本長太教授)と過去に3回開催されています。私は、1988年からIPSに参加してきましたが、1996年からBoard Memberを、また今はVice Presidentをさせていただいている関係からか、今回の日本開催の打診を受け、恩師北澤克明先生の同門門下生である杉山和久教授と一緒に受け持つことを思いつき、金沢市の石川県立音楽堂で本年5月9日から12日に開催しました。

歴史を振り返ると、IPSへの日本からの参加は国内の視野研究者や大学関係者など、第1回から切れることなく継続しており、特に、Board memberには、東京医大・松尾治巨先生が設立時期より参加されており、

その後視野研究をしている大学や研究者など参加者が増えています。[\(リンク1\)](#)

そして、2016年日本人で初めてPresidentに松本長太先生が就任されました。現Board memberには、Vice Presidentに岩瀬、理事には、杉山和久先生、東大の朝岡亮先生が入っております。この体制での日本開催でしたので、日本への各国の先生方の期待度も高く、逆にいうと失敗のできない、国を問わず参加された誰でもが納得できるような内容にしなればならず、ちょっと欲張りすぎかな?と思うような、心に残る学会にしようとプログラムを金沢大の先生方と考えました。

IPS Lecture は、神経眼科のMichael Wall教授、IPS初代Presidentのチュービンゲン大学Aulhorn教授の名前を冠したAulhorn Educational Lectureでは、同教授の弟子のUlrich Schiefer教授(講演中にピアノまで弾いてくれました)、ハンフリー視野計のソフト開発をリードしてきた視野研究の大御所Anders Heijl教授、緑内障画像診断の最新情報はBalwantray Chauhan教授、新しい視野計の開発では近畿大学の松本長太教授にお願いしました。一般講演も、いわゆる「構造と機能」だけではなく、AI診断、運転シミュレーターと視野、ヘッドマウントディスプレイを使用した新視野計などの話

題で満載の学会でした。

ディスカッションも大いに盛り上がり、楽しく有意義な時間を持てたと思います。

個人的には、IPSが終わったあとのJPSの最終日に、特別講演にあたるJPS Lectureで、私の視野研究の最初からのテーマである正常者の視野の加齢変化のテーマをお話ができ、1988年のIPSから2018年の30年のよい総括となりました。

IPSは、当初は、International Perimetric Society (IPS) と言っていましたが、視野とともに画像診断が発達してきたことで、2010年からImaging Perimetry Society (IPS) と称すこととなりましたが、日本視野学会も、この同時開催を機会に、日本視野画像学会となりました。[\(リンク2\)](#)

眼に関する構造と機能の研究テーマは、奥深く、今回のIPSには、国内から多くの若い研究者が参加してくれましたが、若い研究者の皆さんが、この参加をきっかけに、是非、この研究テーマで、今後とも世界をリードする研究者でいてほしいと思っています。



**第23回国際視野画像学会の参加報告はこちら**